公益財団法人８０２０推進財団

令和７年度　歯科保健活動助成交付事業報告書抄録

１　事業名　　「杉並区の高齢者の「歯と口腔の健康」を守るための普及啓発事業」

２　申請者名　杉並区歯科医師会　医療連携理事　渡辺政治

３　実施組織　一般社団法人　東京都杉並区歯科医師会

４　事業の概要

高齢化社会に対応するためには、疾病や要介護状態の予防が重要であり、その中でも「食べること」と口腔の健康が全身の健康に密接に関わっていることが注目されています。地域包括ケアシステムにおいては、歯科と医科の連携が不可欠で、口腔ケアは健康寿命延伸やフレイル予防の重要な柱とされています。

オーラルフレイル対策は健康寿命延伸の重点課題とされておりますが、認知度はまだ低い状況です。

また、地域住民が主体となる「通いの場（サロン)」がフレイル予防の重要な場として注目されており、行政と住民の協働による支援が求められています。高齢者の慢性疾患や生活機能低下に対応するため、介護予防と疾病予防を一体化した取り組みが進められており、杉並区歯科医師会も令和６年から多職種と協力して介護予防事業を展開しています。

５　事業の内容

（１）講演会の開催

・杉並区いきいきクラブ連合会との協力事業　２回（1 回は令和６年度プレ開催）

・区民健康フォーラム（区民センター主催）　１回

・多職種連携講演会（杉並区歯科医師会主催）　医療・介護職対象　１回

講師　日大歯学部摂食機能療法学講座教授　米永一理　先生

（２）介護予防研究会の開催

介護予防を考える会（略称　ネバ会）開催　令和７年度　２回

地域の専門職、団体代表による介護予防事業。令和７年には地域住民、専門職が使えるチェックシート「元気度チェック」（別紙）を作成した。

（３）地域における「通いの場」推進事業

・第２層協議体懇話会　２回開催　地域住民の自主活動を知ってもらうためのイベント開催を計画。

・「口腔機能サロン」立ち上げを支援すべく講演会を開催した。

６　実施後の評価（今後の課題）

「歯と口の健康」が全身の健康と関連し、オーラルフレイル予防がフレイル予防につながることがまだまだ区民に浸透していない。講演後の評価では、歯科への理解が虫歯や入れ歯に偏っているため、今後も「口腔と全身の健康」の重要性を周知する必要があると感じた。地域での口腔機能に特化した取り組みは初めてで、潜在的なニーズを発掘でき、参加者の関心を高めセルフケア理解の促進や活動団体の立ち上げにもつながった。一方で、行政や地域団体の担当者が頻繁に変わるため説明を繰り返す必要があり、事業継続の難しさが課題となっている。